

※ADA(adenosine deaminase)

ADA はアデノシンを加水分解し、イノシンとアンモニアを生成する酵素で、アデノシンの生体内代謝に重要な役割をもつ。

アイソザイムとして組織由来の ADA<sub>1</sub> とリンパ球、特に T 細胞由来の ADA<sub>2</sub> の 2 種類がある。

血清 ADA 活性は、急性や慢性の肝炎、肝硬変などの肝疾患、血液系の悪性腫瘍、感染症として伝染性単核症、風疹、結核、腸チフスなどで高く、ADA<sub>1</sub> 欠損による重症複合免疫不全症では低い。

最近胸水中の ADA 活性値が、結核性の場合に高値を示すことが報告され、癌性や細菌性の胸水との鑑別に役立つことで注目されている。

結核性の場合 ADA 活性値が 50IU/l 以上が多く、結核性髄膜炎の脳脊髄液でも同様であるという。これは T 細胞に由来する ADA<sub>2</sub> の増量が主体と考えられる。



(大分県東部保健所 検査課 診療放射線担当 平成 27 年 11 月 18 日作成)